

### III 民生委員・児童委員向けアンケート調査

---

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

本調査は、市内で活躍されている民生委員・児童委員を対象に、担当する地区において現在把握されている「ひきこもり」に該当する方の情報を調査し、札幌市における特徴的な傾向を把握することで、より効果的な支援を行うための基礎資料とする。

### (2) 調査対象

年齢がおおむね15歳から64歳までの方で次のいずれかに該当する方を「ひきこもり等の状態にある方」とした。

- ① 社会参加（仕事・学校・家庭以外の人との交流など）ができない状態が6ヶ月以上続いていて、自宅に引きこもっている状態の方
- ② 社会参加ができない状態であるが、時々買い物や自分の趣味のために外出することもある方

※ただし、重度の障害や疾病のため外出できない方を除く。

### (3) 調査時期

平成30年7月17日～8月31日

### (4) 調査方法

市内の担当地区を持つ民生委員、児童委員2,640人に対するアンケート調査

### (5) 回収結果（率）

1,682人（63.7%）

### (6) 調査項目

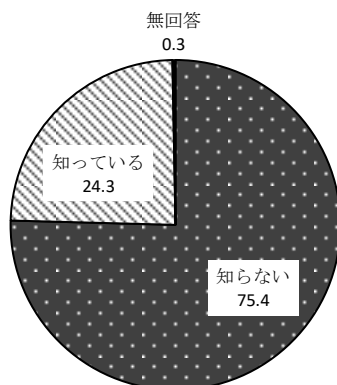
- a. ひきこもり等の状態該当者について（問1～問3）
- b. ひきこもり等の方への支援策（問4）
- c. 自由意見（問5）

## 2 調査の結果

### (1) ひきこもり等の状態該当者について

#### a. 該当者の有無

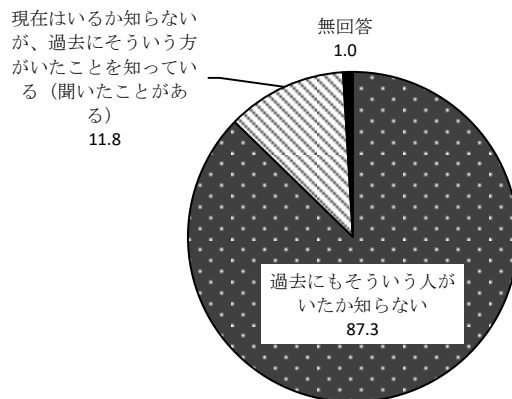
##### ①現在の該当者



n=1,668人

回答者が担当している地域内で、現在、ひきこもり等の状態にある方を知っているかについては、「知っている」が24.3%、「知らない」が75.4%であった。

##### ②過去の該当者（※「①現在の該当者」で「知らない」に回答した者のみ回答）

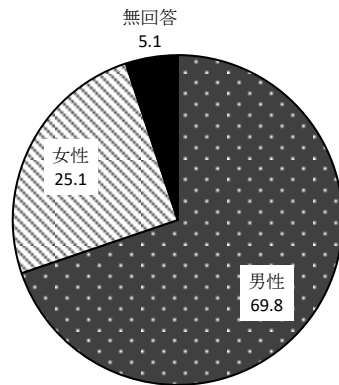


n=1,258人

回答者が担当している地域内で、過去、ひきこもり等の状態にある方を知っているかについては、「現在はいるか知らないが、過去にそういう方がいたことを知っている（聞いたことがある）」が11.8%、「過去にもそういう人がいたか知らない」が87.3%であった。

※「b. 該当者の性別」～「h. 支援の状況」の「n」は該当者数を示す。  
 ※本調査で把握できた該当者の総数は、569人であった。

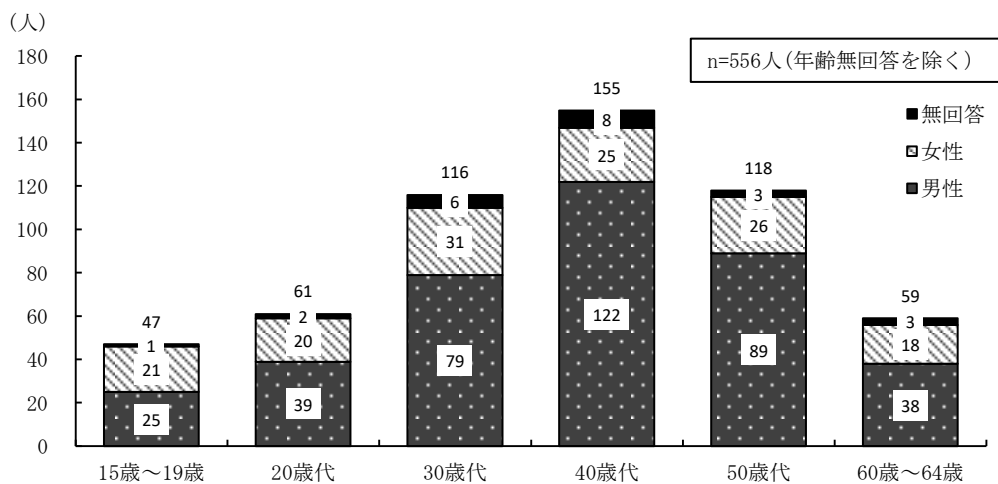
b. 該当者の性別



n=569人

該当者の性別は、「男性」が69.8%、「女性」が25.1%であった。

c. 該当者の年代別性別状況

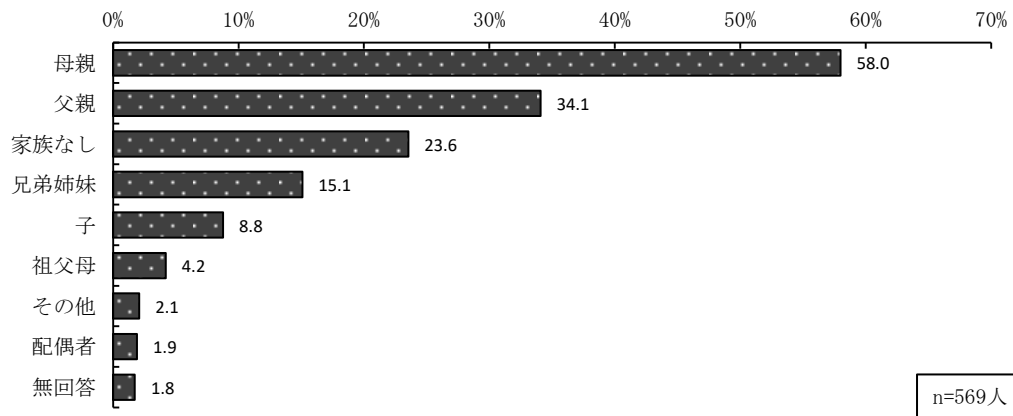


年代別の該当者数は、40歳代が155人(27.9%)で最も多く、以下、50歳代が118人(21.2%)、30歳代が116人(20.9%)であった。

また、15歳～39歳は224人(40.3%)、40歳～64歳は332人(59.7%)であった。  
 年代別性別状況をみると、各年代とも男性が女性を上回っている。

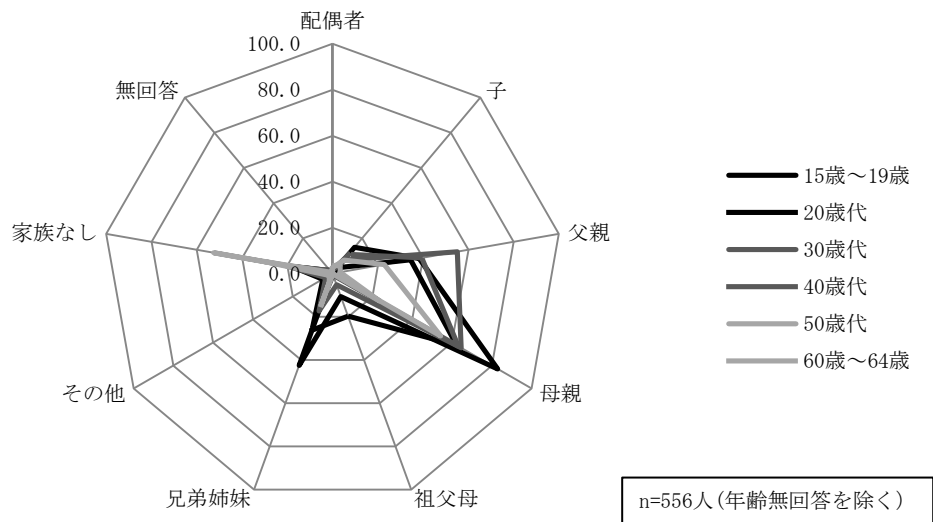
d. 家族構成（複数回答）

①全体



該当者の同居家族は、「母親」が58.0%で最も多く、ついで「父親」が34.1%であった。また「家族なし」は23.6%であった。

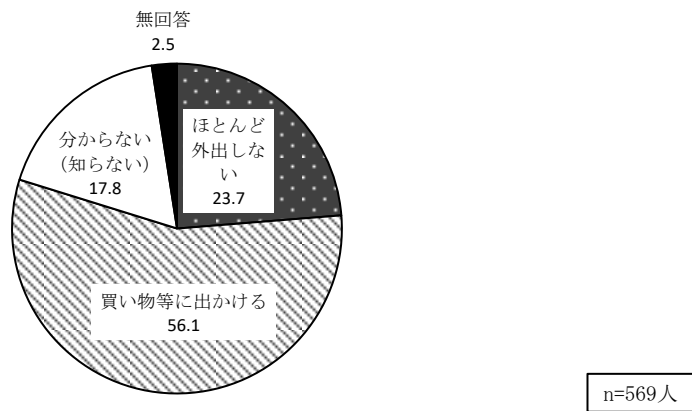
②年代別



年代別では、各年代ともに「母親」が多い傾向がみられているが、60歳～64歳では「家族なし」も多い傾向がみられた。

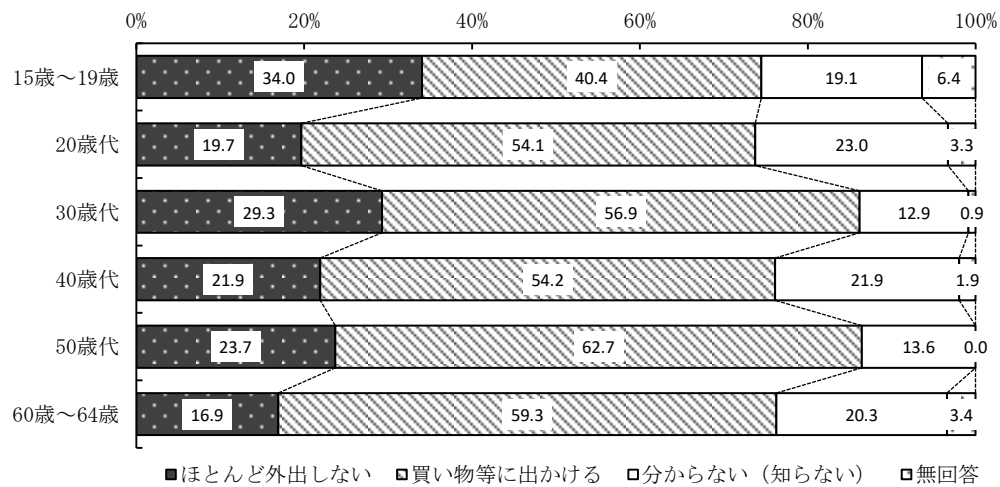
e. 該当者の状況

①全体



該当者の外出状況は、「ほとんど外出しない」が23.7%、「買い物等に出かける」が56.1%であった。

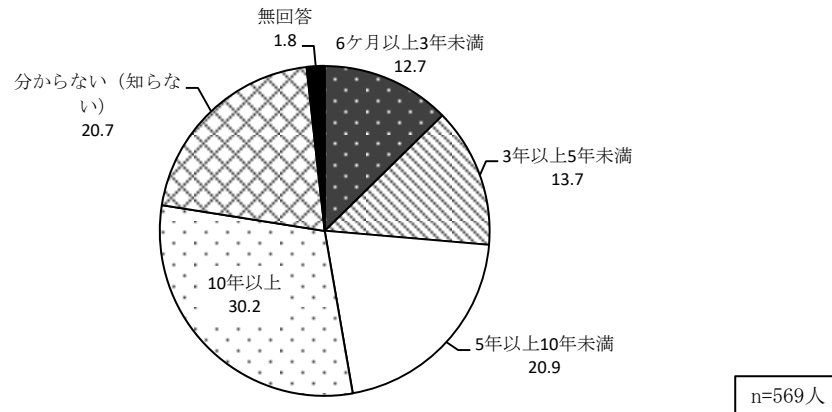
②年代別



年代別では、「ほとんど外出しない」は15～19歳で34.0%と多い傾向がみられ、「買い物等に出かける」は50歳代で62.7%と多い傾向がみられた。

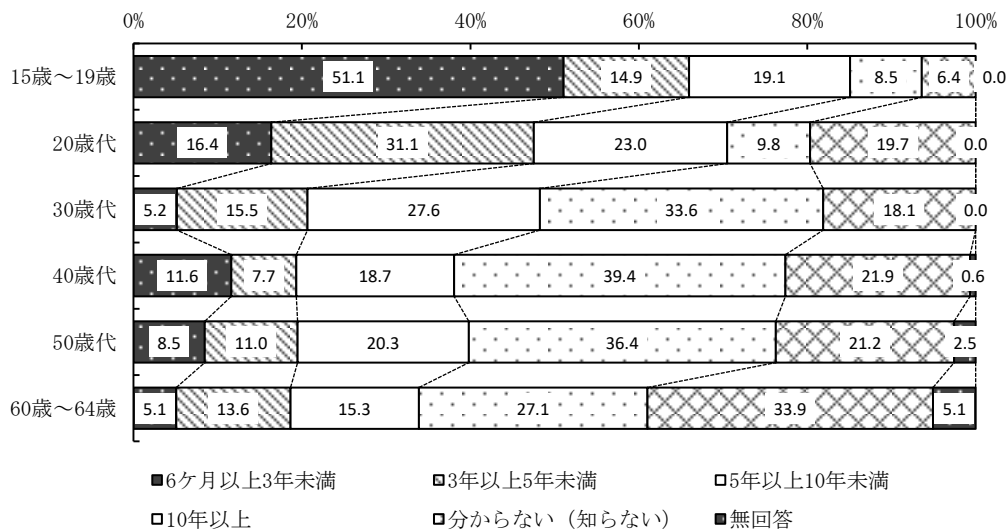
f. ひきこもり等の状態にある期間

①全体



該当者のひきこもりの状態にある期間は、「10年以上」が30.2%で最も多く、ついで「5年以上10年未満」が20.9%であり、5年以上が半数を占めた。

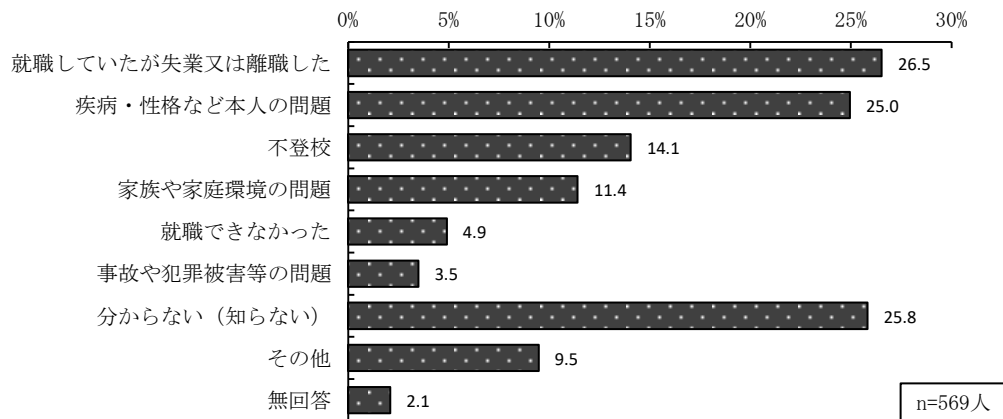
②年代別



年代別では、15歳～19歳は「6ヶ月以上3年未満」、20歳代は「3年以上5年未満」、30歳代以上は「10年以上」がそれぞれ最も多かった。

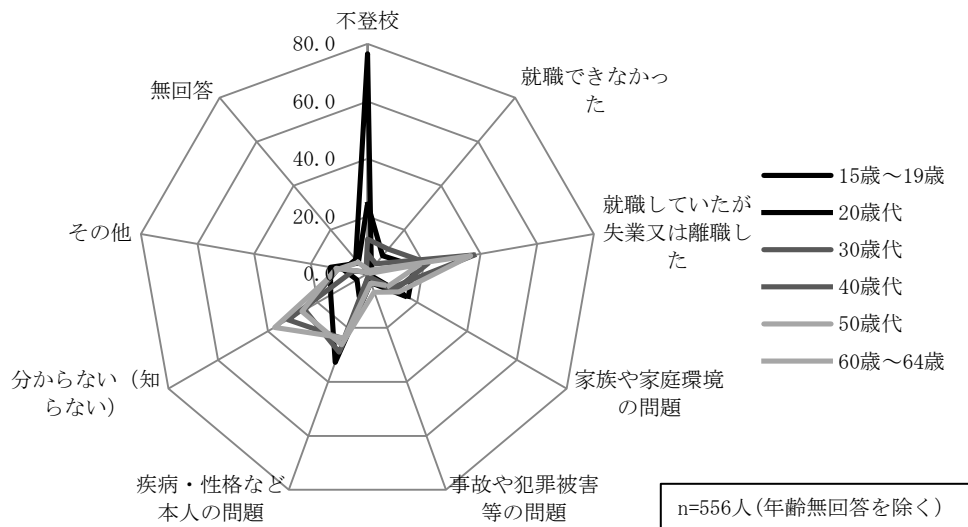
g. ひきこもり等に至った経緯（複数回答）

①全体



ひきこもり等に至った経緯は、「就職していたが失業又は離職した」が26.5%で最も多く、ついで「疫病・性格など本人の問題」が25.0%であった。

②年代別

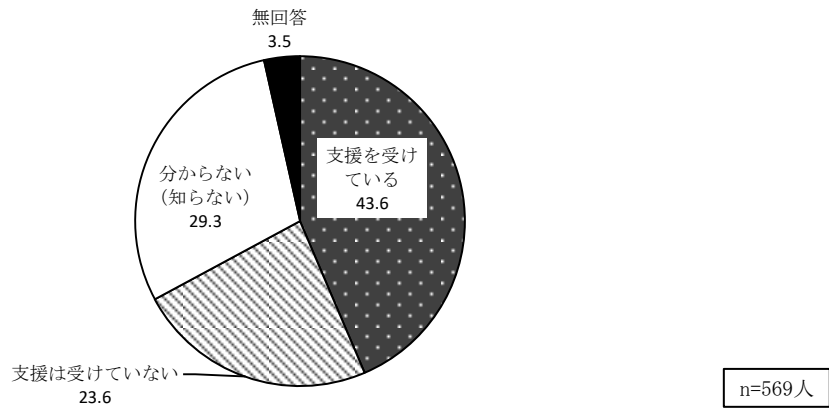


年代別では、15歳～19歳では「不登校」が最も多く、それ以外の年代では、「就職していたが失業又は離職した」及び「疫病・性格など本人の問題」に多い傾向がみられた。



h. 支援の状況（複数回答）

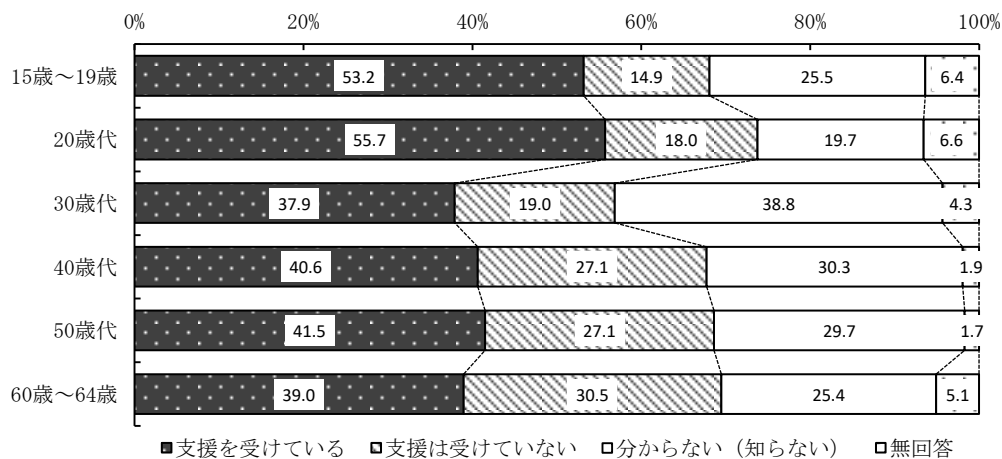
①全体



該当者への支援状況については、「支援を受けている※」が43.6%、「支援は受けていない」は23.6%であった。

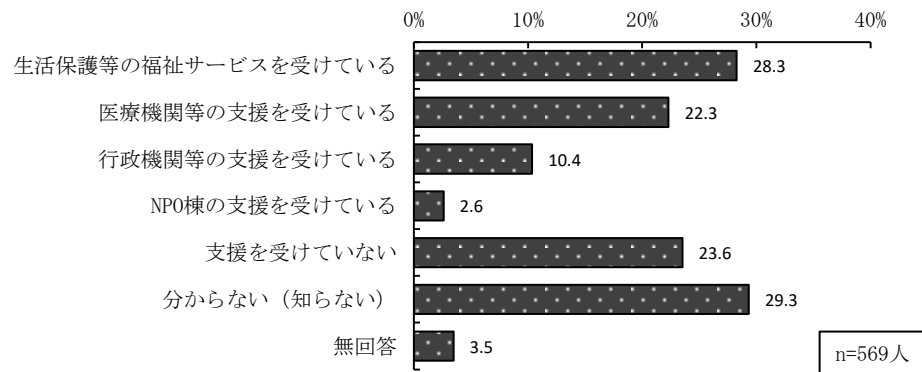
※「生活保護等の福祉サービスを受けている」、「医療機関等の支援を受けている（通院しているなど）」、「行政機関等の支援を受けている（保健所や市役所へ相談しているなど）」もしくは「NPO等の支援を受けている（NPOが主催するイベント等に参加しているなど）」のいずれか、もしくは複数に回答

②年代別



年代別では、15歳～19歳及び20歳代では「支援を受けている」が5割を超えている一方で、30歳代以上は「支援を受けている」が4割前後であった。

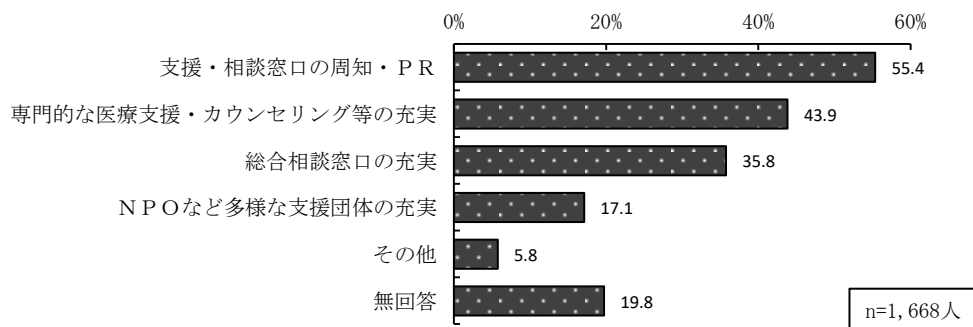
### ③具体的な支援の状況（複数回答）



該当者への具体的な支援状況については、「生活保護等の福祉サービスを受けている」が28.3%で最も多く、ついで「医療機関等の支援を受けている」が22.3%であった。

## (2) ひきこもり等の方への支援策

### a. 必要と思う支援策（複数回答）



※「n」本調査有効回答数

回答者にひきこもり等の方へ必要な支援策をうかがったところ、「支援・相談窓口の周知・PR」が55.4%で最も多く、ついで「専門的な医療支援・カウンセリング等の充実」が43.9%であった。